

## 第124回定時株主総会 質疑応答要旨

当資料は、2024年6月25日（火）に開催した当社第124回定時株主総会において、株主の皆様からいただいた主なご質問（事前質問・会場質問）とその回答を要約したものです。理解促進の為に、一部内容の加筆修正を行っております。

### 【株価について】（事前質問）

Q：株価を上げていくための対策を教えてください。

A：損益分岐点にこだわり続けるとともに、①収益性改善、②資本効率向上、③IR戦略・将来戦略訴求、④株主還元・資本施策の4本柱で進めていく。

①「収益性改善」は、低収益製品の撲滅及び高収益製品の市場投入

②「資本効率向上」は、不要資産・政策保有株式の縮減

③「IR戦略・将来戦略訴求」は、成長戦略の浸透と定量的な裏付けの発信

④「株主還元・資本施策」は、戦略に基づいた株主還元の拡充を検討

### 【今後の業績見通しについて】

Q：今期の業績と、中長期の見通しについて教えてください。

A：昨今の激しい変化に対応して柔軟な生産調整を行える様にしていく他、様々な施策を取りながら、毎年増収増益を達成する年輪経営を実現していきたいと考えている。

### 【注力している開発テーマについて】

Q：開発テーマの中で、特に注力されている分野とその成果について教えてください。

A：自動車関連については、将来を見据えて必要なタイミングで魅力ある製品を提供できるよう、次世代のステアリング及び駆動系システムの開発に取り組んでいる。

新規事業については、資本効率も見ながら、将来に向けた開発に力を入れている。

### 【お客様のニーズと当社の技術シーズ（強み）をマッチングする工夫について】

Q：お客様のニーズと当社の技術シーズ（強み）をマッチングする工夫を教えてください。

A：技術シーズについてはプロダクトアウト（作り手の理論優先）になりがちな為、マーケットイン（お客様の声優先）を意識し、コーポレート戦略組織をつくり、将来のマーケットを議論するなどしている。

### 【ドローン業界への参入について】

Q：ドローン業界に対するこれからの戦略を教えてください。

A：当社の持つ技術力でドローンの更なる性能向上にお役立ちしていきたいと考えている。

例えば、ドローンは風雨などの外的要因に大きく左右される為、当社の持つ制御技術とキャパシタの組み合わせでドローンの性能向上に貢献できると考えている。

### 【カーボンニュートラルの取組みについて】

Q：カーボンニュートラルの取組目標とメリットについて教えてください。

A：日本政府の2050年カーボンニュートラル宣言や、COP26を受けて、2035年に生産におけるCO<sub>2</sub>のカーボンニュートラル達成を目標に掲げ、マイルストーンとして、2030年にCO<sub>2</sub>総排出量を2013年比で60%削減することを目指している。指標の一つである再生可能エネルギーの導入率25%については、2030年目標を2025年に前倒しで達成できる見込み。

カーボンニュートラルに取り組むことは、コスト抑制にとどまらず、当社理念にある「地球のため」の実現につながると考えており、また、カーボンニュートラル製品の購入を希望されるお客様が増えている点も重要視している。

### 【DXについて】

Q：多種多様なデータを使いこなす仕組みを教えてください。

A：従来はデータが散在しており、スピード感を持って有効に活用するには時間を要したが、データを一元管理し、必要な時にいつでも取り出せる仕組みの構築に取り組み、全社員がツールを使こなして分析・使用が柔軟にできる姿を目指していきたいと考えている。

### 【社会貢献活動について】

Q：ジェイテクトの社会貢献活動とその考え方について教えてください。

A：企業の存続自体が社会貢献につながると考えており、  
第一に、良質廉価の製品を供給していくことで、より快適な暮らしづくりにつながり、  
第二に、利益を上げ、税金を納めることで社会インフラ向上にも寄与できる。  
第三には、会社が成長を続けて行くことで、雇用を増やすこともできると考えている。  
事業以外にも、主にスポーツ活動への支援や子ども食堂への支援を通じて、子供たちの健全な成長をサポートしていきたいと考えており、一過性ではなく、永続的に行っていく事が重要だと考えている。

### 【本社のエントランスについて】

Q：会場付近の植栽やエントランスが一新されていることに驚いたが、改修に取り組んだ理由について教えてください。

A：「歴史と伝統」「革新と飛躍」をテーマに、これまでに推し進めてきたOne JTEKTの象徴としてリニューアルし、お越し頂いたお客様をおもてなしできる空間づくりを行った。

### 【その他ご要望に対して以下のとおり議長が確認】

- ・グループ会社の経営に責任を持ち、現場の声に耳を傾けられる経営者を育ててほしい
- ・シニア社員や労災被災者も、安心して働けるマネジメントをお願いしたい
- ・社員の健康や安全を見守り、社員を大切にできる会社であり続けてほしい

以上